



トピックス

【第58回福島県農業賞】 (株)グリーンカルチャーが受賞しました

8月29日(火)、福島市の杉妻会館において福島県と福島民報社、福島県農業会議、福島県農業協同組合中央会、ラジオ福島主催による「第58回福島県農業賞表彰式」が開催されました。

「農業経営改善部門」で受賞した(株)グリーンカルチャーは、「①緑豊かな大地の創造②生きがいのある町・職場・農業・人間形成③地域社会貢献と信頼される会社づくり④会社の利益向上と実践行動に向けた人間形成⑤人・自然・生物への思いやりを重視する人間形成」を経営理念とした農地所有適格法人で、過疎・高齢化が進む南会津地方の先導的な担い手として頑張っています。経営は、水稻 4,345a、トマト100a、作業受託(水稻)を中心とした複合経営で、女性社員等の雇用・職場環境の改善、若者の人材育成等も積極的に行っています。また、冬期間は公共施設・高齢者住宅等の除雪作業を受託することで、年間を通じて地域に貢献し、地元住民や農家からも期待の声が多く寄せられています。



松村所長、阿久津課長補佐(南会津町)と
(株)グリーンカルチャーのみなさん

(農業振興普及部)

第187号(平成29年9月)
 今号の写真:リンドウ(品種:花泉(かせん))*
 ※花泉(かせん)については2ページ参照

《 目 次 》

- トピックス
 - ・【第58回福島県農業賞】(株)グリーンカルチャーが受賞しました
 - ・只見町の米焼酎「ねっか」がIWSCで銀賞を受賞しました
 - ・「会津田島アスパラ」が地域団体商標に登録されました
 - ・南会津町役場新庁舎の内装木質化について
 - ・第2回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました
 - ・～収益性の高い畜産経営を目指して～ (株)金子牧場
 - ・南会津公共工事安全推進協議会 第1回安全パトロールを実施しました
 - ・～グローバル・GAPへの取組～ 水無農産倶楽部
 - ・きのご原木用非破壊型放射能検査装置について
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動 総会を開催しました
 - ・エコファーマーになりませんか？
 - ・29年産米の放射性物質全量全袋検査の実施について
 - ・野生きのこのモニタリング検査及び出荷制限について
- コラム
 - ・～全国植樹祭に向けて～
 「開催日決定！平成30年6月10日(日)」
 平成29年 9月21日発行 福島県南会津農林事務所

只見町の米焼酎「ねっか」が IWSCで銀賞を受賞しました

昨年度県の補助金を活用して「レーザー加工機」を導入するなど木工レースや焼酎づくり等精力的に活動している「合同会社ねっか」が、7月26日(水)、1969年(昭和44年)からイギリスで開催されている酒類の国際品評会「インターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンペティション(IWSC)」において銀賞を受賞しました。



賞状を持ち笑顔を見せる代表社員の脇坂さん

出品した米焼酎「ねっか」は只見町の農業者等で構成される「合同会社ねっか」が只見町産米を100%使用して製造した米焼酎で、今年4月17日(月)にお披露目会が開催されたばかりです。

「ねっか」がエントリーした焼酎部門には、日本や韓国などのアジア圏から80点以上の出品があり、その中で初めて出品し、銀賞を受賞したことは大変な快挙です。代表社員の脇坂さんは、「自分たちの強みは、原料となる米を自ら生産していること、福島県の『うつくしま 煌 酵母』を使用していること」と話されており、地元産の原材料を使用することに強いこだわりがあることがうかがえます。

今後、「合同会社ねっか」が取り組んでいる地元産の米を使用した米焼酎づくりや只見町産木材を使用した木工レースづくりなど地域産業6次化を核とした特色ある地域づくりに寄与することが益々期待されます。

(企画部)

「会津田島アスパラ」が地域団体商標に登録されました

7月14日(金)、南会津地方で栽培されているアスパラガスが「会津田島アスパラ」として地域団体商標に登録されました。登録は全国で613番目、県内では6番目です。「会津田島アスパラ」は、グリーン、パープル、ホワイト



会津田島アスパラ

の彩り豊かな三色あり、寒暖差を活かした甘味が特徴のアスパラガスです。平成25年から生産者、南会津町、会津よつば農業協同組合が協力して商標取得に向けた検討を進め、約4年かかって念願の登録となりました。今後は、商標を活かした出荷・販売力の向上と併せ、単収底上げによる出荷量増加、さらには生産者の所得向上に向けて、生産者、関係機関・団体が一体となって「会津田島アスパラ」産地の強化を図っていきます。

(農業振興普及部)

南会津町役場新庁舎の内装木質化について

8月5日(土)、南会津町役場では内装や家具に地元の木材がふんだんに使用された新庁舎の落成式が開催されました。



光の広間(吹き抜け)

南会津町は、平成25年2月に「南会津町公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を策定し、町産材の活用に取り組んでいます。平成25年12月には、新庁舎建設計画を策定して、NPO法人みなみあもりいづ森林ネットワーク(素材生産業、製材業等で構成)と連携しながら町有林(SGEC認証林)の活用を進めてきました。スギ、カラマツなど600m³が切り出され、地元の製材所で153m³の製材品となり庁舎に使用しています。

農林事務所では、内装木質化等を推進するため、①森林整備加速化・林業再生事業(木造公共施設等整備事業)②森林環境交付金事業(内装木質化)③森林環境交付金事業(木製家具)の導入を支援し、床、壁、天井等の木質化、木製カウンター等の家具購入を進めてきました。多くの町民が本施設を利用して、木の温もりを感じてもらい、自らも木に囲まれた生活を実現できるよう、関係団体等と連携しながら、各種支援策や木材利用事例等の情報を発信してまいります。

(森林林業部)

第2回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました

県では、県産農林水産物の風評払拭と農林水産物の消費拡大を目的として、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを県内各地で開催し

ております。

当事務所では、8月19日(土)、道の駅「きらら289」において、第2回のキャンペーンを開催し、旬の「南郷トマト」と「リンドウ」をPRしました。

当日は、来場者の皆様へ、平成27年度に「第42回福島県花き品評会」で農林水産大臣賞を受賞した斎藤明さん生産の「リンドウ(品種：花泉(かせん))」をプレゼントしました。

時折雨が降るあいにくの天候でしたが、「トマト」や「リンドウ」のふくしまイレブン専用のかぶり物をかぶった職員の奮闘もあり、抽選会場は大いに盛り上がりとともに、来場者プレゼントとして配布した「リンドウ」についても来場者の皆様にご好評をいただくことが出来ました。

当事務所では、引き続き県産農林水産物等の消費拡大のための取組を実施してまいります。



景品をPRする様子

(企画部)

～収益性の高い畜産経営を目指して～ (株)金子牧場

下郷町で畜産経営を行う(株)金子牧場(代表：金子政彦氏)では、昨年度ICT技術を活用した自動給餌システムやトンネル換気の牛舎を導入し、技術改善を図りました。これらにより、大幅な省力化の実現とともに、一頭毎の体調に応じた濃厚飼料の給餌等による盛夏期の乳量低下が改善され、年間を通じて安定した生乳が生産出来るようになりました。また、自社で製造しているヨーグルト等の加工品も県内16ヶ所での販売を展開し、高い評価を得ています。

金子代表は従業員1名とともに飼養管理部門を担当し奥様と2人の息子さんが加工部門を受け持っています。金子代表は「健康な牛の生乳から出来た加工品は自信を持って勧められる」「経験で判断していた管理をICT技術導入でより適正に出来る」また、「人が生きていくためには農業が基本。農業に対する価値観を高めるような施策を願う。」と話されていました。金子牧場のさらなる発展に、地域から大きな期待が寄せられています。



後継者とともに加工部門を展開し、経営への考え方が大きく変わったと話す金子代表

(右:金子代表 左:従業員の星さん)

(農業振興普及部)

南会津公共工事安全推進協議会 第1回安全パトロールを実施しました

8月4日(金)、福島県南会津公共工事安全推進協議会の第1回安全パトロールが開催されました。この取組は、労働災害発生ゼロを実現する作業環境づくりを目的に、発注者と受注者が合同で工事現場に危険な箇所や改善すべき点がないか調査・確認するものです。

パトロール実施後の講評会では、現場内を整理整頓することにより作業員の転倒防止につながることや、休憩所を設置し熱中症対策を図っていることなどが評価されました。

一方、改善すべき点としては、重機の作業範囲内に立入禁止看板を設置することや昇降階段の手すりを強固にすることなどが指摘され、受注者において速やかに改善されました。今後も協議会は工事監督を通じ、工事現場の安全な作業環境の確保に努めるとともに、建設業の魅力ある職場づくりにもつながるよう指導を徹底してまいります。

(総務部)

～グローバル・GAPへの取組～ 水無農産倶楽部

南会津町の水無農産倶楽部(代表:星 信弘氏)ではグローバル・GAP(GLOBALG. A. P.)認証取得に向けて取り組んでいます。6月からコンサルティング会社の現地調査が入り、点検項目に基づき農場の管理体制、危険箇所などのチェック・改善を行っています。5回の現地調査の後、10月には認証のための審査が予定されています。

星代表は「G・GAPの理念が、私が目指す農業経営に合致していたので取り組みました。今まで出来ていなかった生産工程の記録・点検に取り組むことで、資材等の無駄を削減していくとともに、作業の効率化による経営改善を期待します。今まで整理整頓が出来なかった部分を改善することにより、労働環境・安全管理に配慮でき、気持ちよく働ける職場を目指します。」と、審査に向け最終調整に入っています。

なお、7月11日(火)より、「ふくしま県GAP(FGAP)」がスタートしました。いずれのGAPにおいても審査や認証に向けての必要経費については、県の事業により助成を受けられます。興味がある方はぜひ農業振興普及部へご相談ください。

(農業振興普及部)

きのこ原木用非破壊型 放射能検査装置について

福島県のきのこ原木生産量は、全国でトップクラスを誇っていましたが、東日本大震災及び原発事故の影響により、ここ数年、全国下位に低迷しています。また、これまでのきのこ原木の検査は、1ロット3本を抽出検査していることから、測定値のバラツキが多い状況にありました。

そこで、福島県は平成28年1月に1本ずつ正確に測定できる「きのこ原木用非破壊型放射能検査装置」2台を購入し、南会津町の原木生産者や森林組合をメンバーとする「南会津広葉樹利用生産組合」の組織化を支援するとともに、検査装置を貸付して、安全なきのこ原木の出荷を推進しています。

本組合では、平成28年度の実績55,000本に対し、平成29年度の計画を90,000本として、南会津町等の協力を得て、きのこ原木生産に適する広葉樹林を探しながら、安心安全なきのこ原木を「南会津ブランド」として提供し、森林の再生を図っていく考えです。

(森林林業部)

農林事務所からのお知らせ

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動 総会を開催しました

6月30日(金)、JA会津よつばみなみ地区本部会議室において、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」南会津地方推進本部平成29年度総会及び意見交換会を開催しました。

会議では、南会津管内の6次化商品である「みるたまドーナツ(道の駅しもごう)」と「南郷トマト酢((株)只見特産)」を紹介しました。また、各構成員の立場から、今後の地域振興や新生運動の推進または発信に向けた意見交換が行われました。

南会津地方推進本部では、こうした意見等を取り入れながら、今後の運動を地域活性化への取組に活かしてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(企画部)

エコファーマーになりませんか?

エコファーマーとは、土づくりと化学肥料・化学農薬の低減に一体的に取り組む「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を県知事に提出し、認定を受けた方です。「たい肥等施用技術」

「化学肥料低減技術」「化学農薬低減技術」を基本とする農業生産方式に取り組み、生産性の向上を図りながら環境と共生する農業を目指していきます。

エコファーマーが生産した「エコ農産物」を出荷・販売される方は「PRマーク」をパッケージなどに貼ることができます(シール等作成費用は自己負担です)。

エコファーマーになるためには、申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えてご提出いただきます。詳細は農業振興普及部へご相談ください。

【電話】 0241-62-5264

(農業振興普及部)



29年産米の放射性物質全量全袋検査の実施について

根強い風評被害を払拭するため、29年産米についてもこれまでどおり検査を実施します。生産者の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

1 検査の対象

県内全ての地域における、飯米・縁故米等を含む全ての米が検査対象です。

2 検査方法

南会津地方では7カ所の検査所で検査を実施します。

検査に使用する米袋識別バーコードラベル及び検査済みラベルは、新たなラベルを使用します。

平成29年産米用のラベルは桃色です。

3 追加検査について

今年度は、測定下限値以上スクリーニングレベル以下(25~50Bq/kg)の値が検出された米を対象に追加検査を実施します。

4 精米ラベル

29年産米精米袋用ラベルの配布は、次の申込先で受け付けています。(農産物検査を受検したものに限りです)

〈精米袋用ラベル申込先〉

ふくしまの恵み安全対策協議会
(福島県環境保全農業課)

【電話】 024-521-8446



〈精米袋用ラベルのイメージ〉



〈検査済みラベルのイメージ〉
(農業振興普及部)

野生きのこのモニタリング検査及び出荷制限について

県では、平成23年度から野生きのこの緊急時環境放射線モニタリング検査を品目毎に市町村単位で実施しています。

その検査の結果により、南会津管内では下郷町及び只見町で採取された「野生きのこ全品目」が出荷制限となり、現在も継続しています。

平成29年8月現在、福島県内では南会津町、檜枝岐村、湯川村及び金山町以外のすべての市町村が出荷制限に該当しています。

お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a>

電話 0241-62-5252 FAX 0241-62-5256

出荷制限指示が出されている下郷町・只見町産の野生きのこは、出荷販売及び宿泊施設等での提供をしないようにお願いします。

摂取及び出荷制限のない檜枝岐村及び南会津町産の野生きのこについても、今シーズンの検査で安全が確認されてから出荷販売及び宿泊施設での提供を行うよう、ご協力をお願いします。

なお、検査結果は新聞やホームページなどで公表されますのでご確認ください。

また、栽培きのこにつきましても、生産者毎に毎年きのこの発生初期に検査で安全であることを確認したうえで出荷しております。野生きのこに併せてお知らせします。

「ふくしま新発売。」

<http://www.new-fukushima.jp/>

(森林林業部)

コラム

～全国植樹祭に向けて～ 「開催日決定!平成30年6月10日(日)」

全国植樹祭の開催日が来年6月10日(日)に決定しました。会場は南相馬市原町区雫(しどけ)地内です。福島県においては、昭和45年5月19日の第21回大会(福島県猪苗代町)の開催から48年目となります。

開催日決定の8月9日(水)には、全国植樹祭のPRを兼ねて会津田島駅前など3箇所で開催のチラシ等を利用者の方に配布しました。全国植樹祭の関連行事として、管内13の小学校が平成27年度から継続して取り組んでいる「苗木のスクールステイ」では、ドングリから育てたトチやコナラの苗木約200本、小さな苗木から育てたケヤキやイロハモミジの苗木約100本を小学生が育苗しています。「苗木のホームステイ」では、企業や個人の方がクロマツやアカマツの苗木約130本を育苗しています。こうして育てられた苗木は、全国植樹祭の植樹会場や地方植樹祭等で植栽される計画です。



全国植樹祭式典会場

(森林林業部)



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。